

第 36 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 6 年 3 月 25 日 (月) 午前 10 時～正午		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 北棟 6 階 602 会議室		
出席者	委員	浜田副会長、岡田委員、梶木委員、國原委員、栗本委員、栗原委員、島委員、田中委員、辻中委員、山下委員 【計 10 人出席】	
	事務局	【子ども未来部】 小澤子ども未来部長、野儀子ども未来部理事、松原子ども未来部次長、東浦子ども未来部参事、釋子ども政策課長、片岡保育総務課長、岡本保育所・幼稚園課長、松田子ども育成課長、穴尾子育て相談課長、阪口一時保護課長、田村子ども支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 垣見教育部次長（教育政策課長）、山田地域教育課長、牧野学校教育課長	
開催形態	公開（傍聴人：0名）	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題 又は 案件	【審議案件】 <ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度奈良市子ども会議について（令和 5 年度の実施報告含む） ・令和 6 年度奈良市教育・保育の提供体制について 【報告案件】 <ul style="list-style-type: none"> ・第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査結果について ・第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画について ・こども家庭センターについて ・奈良市子ども・子育て支援推進本部について 		
決定又は取り 纏め事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度奈良市子ども会議について（令和 5 年度の実施報告含む）、資料を提示しご意見いただいた。 ・令和 6 年度奈良市教育・保育の提供体制について、資料を提示しご意見いただいた。 ・第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画について、またニーズ調査結果について、資料を提示し内容を確認いただいた。 ・こども家庭センターについて、資料を提示し内容を確認いただいた。 ・奈良市子ども・子育て支援推進本部について、資料を提示し内容を確認いただいた。 		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
【審議案件】			

(1) 令和6年度奈良市子ども会議について（令和5年度の実施報告含む）

・委員より、令和5年度の奈良市子ども会議のグループ分けについて、人数が均等になっているが、自然とこのグループになったのか、ある程度の誘導があったのか質問があった。また、各グループのテーマ名は市やファシリテーターからの誘導なく子どもたちが自ら決定したものなのか質問があった。

・事務局より、グループ分けは子ども政策課で学年や年齢が偏らないように、応募者25名を5グループに分けたと回答した。また、テーマ決めについては、テーマの担当課から奈良市の課題について子どもたちに説明し、子どもたち自身でテーマ名を設定したと回答した。

・委員より、子どもたちに説明する職員に対して、子どもに向けて話すための事前研修は行われていたのか質問があった。

・事務局より、例えば事前に事務局から職員に対し、子どもたちにとってわかりやすい表現や資料の作り方、ルビを振るといった工夫等をするように伝えたと回答した。

(2) 令和6年度奈良市教育・保育の提供体制について

・委員より、資料の利用定員数はあくまで指標であり、実際に保育士不足により利用定員数の受け入れができないという実態があるかという質問があった。

・事務局より、資料では各園が設定した認可定員の一覧を記載しており、利用定員数と在園児数の間に乖離がある場合もあると回答した。

・委員より、利用定員数と在園児数の乖離について、奈良市の保育士の数は足りているのか質問があった。また、民間移管について、全体の充足率を鑑みて民間移管または新設を考えていく必要があるがそれについて奈良市はどう考えているのか質問があった。さらに、保育士の確保に関して民間移管や新設の中で工夫していることはあるのか質問があった。

・事務局より、市内ではまだ待機児童が発生している状況で完全解消ができておらず、民間移管はこの待機児童解消の取り組みの一環として行っている。今後どれくらいの保育需要の見込みがあるかや周辺の待機児童の発生状況を鑑みて利用定員を検討している。また、移管先法人の要件の中には保育士を適切に確保すること、支援が必要な児童の受け入れも行うこと等を設けており、国の支援策などの動向を注視し奈良市でできる支援は奈良市でしっかり支援していきたいと考えていると回答した。

・委員より、実際に保育士不足により子どもを定員数まで預かることができなくなっている状況にもかかわらず、保育士の確保より施設整備の方が先行しているように感じる。民間移管に関しても本当に必要かどうか考えてほしい。例えば、近隣の保育所を分園という形で運営し、子どもたちの受け入れの調整をしていく方がいいのではないかという意見があった。

・委員より、三笠保育園が民間移管されることになったが、保護者からはまだまだ大きな不安があると聞いている。今後どのようなメリットがあるのか、どのような教育・保育方針なのかといった話がまだまだされていないように感じる。もっと切り込んだ形で丁寧に説明してほしいという意見があった。

・事務局より、三笠保育園について令和5年度に移管先法人を公募し、幼保施設運営事業者選定委員会において法人を選定した。そして令和6年度に保護者の代表の方・奈良市・移管先法人の三者協議会という場をもって今後の運営内容や保護者の実費負担等の検討を進めていく予定である。今後、まず保護者の方々と移管先法人との顔合わせ等からスタートし、丁寧に移管についてご説明や協議を重ね、民間移管を進めていくと回答した。

・委員より、市には保護者が様々な意見を言いやすい場や雰囲気づくりをしてほしいという意見があった。

・委員より、資料において各地区の「5年間の量の見込み」とは受け入れる子どもの総数ということなのか質問があった。また、教育・保育の提供体制の整備の中で新たに利用定員数を増やしても、受け入れ自体はあまり増えていないということなのか質問があった。また、待機児童数は何人か質問があった。

・事務局より、「5年間の量の見込み」は、子ども・子育て支援事業計画に記載されている数量をそのまま記載している。また、利用を希望する割合が増えても人口減少が進んでいく予想から自ずと教育・保育を希望する見込み人数も減少していると考えられる。そして国基準の待機児童については、令和4年4月時点では8名、令和5年4月時点では16名となっており、増加の要因としては保護者の就労時間の要件が96時間から64時間に緩和されたことが考えられると回答した。

【報告案件】

(1) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査の結果について

・委員より、資料16ページの質問の選択肢には「子どもにとって安全な環境がある」と表

記され、17 ページの質問の選択肢には「子どもが安心して過ごすことができる居場所や遊び場がある」と表記されているが、「安全」と「安心」をどういう意図で使い分けているのか質問があった。

・事務局より、「安全」はサービスを提供する側の思いというか、内部的な意味合いがあり、「安心」は対象者、ここでは子どもまたは保護者がそう思うかどうかという意味合いがあると思うと回答した。

・委員より、保護者がどこまで「安全」と「安心」の区別を意識して回答しているのかわからないが、言葉の使い方について検討した方がいいと思うという意見があった。どんな言葉が適切か自分もわからないところがあるが、何かしらの基準があれば聞きたかったのと、他の委員の方からも何かご意見があれば聞きたいという意見があった。

・委員より、「安全」とは客観的な視点で「安心」とは主観的な視点だと思う。保護者や子どもが「安心」して過ごせるかどうかは子どもの権利や居場所に関する視点で、全体的に求められるのは「安全」で、その中にさらに「安心」があると思うという意見があった。

・委員より、男性の育休取得について奈良市から何か補助のようなものはないのか質問があった。また、ニーズ調査の質問はあらかじめ選択肢が提供されその中から選ばせる形式のため真意が読み取り切れないところもあると思われるため、一部の人にインタビューのような形で直接意見を聞くことができないか質問があった。また、調査票の回収率が低いため、オンラインでの回答ができるようにするべきという意見があった。

・事務局より、担当部署において民間企業にも市役所内部でも育休の取得促進、周知啓発を行ったり、民間企業と連携し成功事例を共有したりする検討をしていると回答した。

・委員より、なかなか連携が難しいとは思いますが、何かいい手があればと思うという意見があった。また、残り 2 点についてはまた引き続き検討してほしいという意見があった。

(2) 第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画について

質問・意見なし

(3) こども家庭センターについて

・委員より、こども家庭センターについて、当事者ではなく近隣住民や民生委員といった第三者が子どもの様子を見聞きしてこども家庭センターの相談することはできるか質問があった。

・事務局より、基本的に支援の必要な当事者に寄り添い、サポートプランを作成し必要な支援メニューにつなげていくことを想定しており、段階的にまずは妊産婦を中心に支援していくと回答した。

・委員より、支援が必要な方ご本人が拠点まで足を運んだり自ら相談したりすることはなかなか難しい。周りの人が支援の必要性に気付いてもご本人に相談に行くよう促すことしかできないということか質問があった。

・事務局より、「こんにちは赤ちゃん訪問」という全戸訪問を行っており、支援の入り口になりえると思う。また、当事者の周りの地域の関係主体との連携も大切だと考えていると回答した。

(4) 子ども・子育て支援推進本部について

・委員より、とても素晴らしい取り組みのため奈良市にはぜひ全国の先頭に立って頑張ってもらいたい。全ての子どもの発した声が聞き取られて実現していく好循環が構築されていくといいと思うという意見があった。

資 料	<p>【資料1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿</p> <p>【資料2-1】令和5年度奈良市子ども会議報告書</p> <p>【資料2-2】令和5年度奈良市子ども会議意見書</p> <p>【資料2-3】令和6年度奈良市子ども会議開催案について</p> <p>【資料3-1】令和6年度奈良市教育・保育の提供体制について</p> <p>【資料3-2】幼保連携型認定こども園等の新設について</p> <p>【資料4】第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査結果概要</p> <p>【資料5】第三期奈良市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール(案)</p> <p>【資料6】こども家庭センターについて</p> <p>【資料7】奈良市子ども・子育て支援推進本部について</p>
-----	--